事業完了報告書 (実行団体)

 事業名:
 FC琉球県産品応援プロジェクト区

 資金分配団体名:
 実施時期:
 ・ 総社団法人RCF

 実施時期:
 2021年6月~2022年2月

 事業対象地域:
 沖縄県

農水生産者、子ども食堂

<u>Version 3.2</u> 日付: #########

<u>事業対象者:</u> I. 事業概要

事業実施概要

地元小売大手イオン琉球と連携し、沖縄県等から紹介を受けたコロナ禍の影響が大きい農水産品を使った琉球応援弁当を開発し、選手が農家や漁師を訪問し弁当を開発する過程やアスリートや子供の発育への県産品の有効性や活用レシビを地上波TV番組やWEBで公開することなどで県産品がコロナ禍による影響を受けている実情や県産品の魅力の発信、新たな需要据り起こしを実現した。合わせてイオン店舗やスタジアムイベントで琉球応援弁当や紹介した県産品を販売することで直接的な流通促進にも寄与することができた。
また、因窮家庭の子供への支援として琉球応援弁当5000食を県内の子供食堂に寄付した。子供食堂との交流を通じコロナ禍により学校行事が無くなる中で特に困窮家庭の子供には食糧以外に社会的・文化的経験も不足している現状に気付き、本事業ではバス会社の協力も得て215名の子供達をホームゲームに招待しリリーグ観戦しながら琉球応援弁当を食べる企画や選手と子供の県産品食育教室も実施し、地元プロサッカー選手との交流を通し夢や目標を持つことでの自立支援も目指した。

Ⅱ.課題・事業設計の振返り

本事業の一連の活動はクラブやイオン琉球の発信力も活かし県内のTVニュース (3社) や新聞 (4社)、WEBメディアを通して広く周知され、県民の啓蒙に貢献できたと感じている。また、本事業に参加した企業、団体、自治体からは活動の継続を望まれており、農水生産者と子供達を繋ぎ同時に支援するブラットフォームとして定着させていきたい。協働したイオン琉球でも、本事業をきっかけに、県産品の活用に対する姿勢が変わったとのことで、県内小売大手の活動に影響を与えることができたのは大きな効果であった。 【イオン琉球担当者コメント】

「スの取組みを通」、地域の農家の方々や多くのこども薄からたくさんの「ありがとう」の声を頂きました。また「地域にはまだまだ素晴ら」い表材がたくさんあるしとい

課題設定、事業設計に関する振り返り

この取組みを通し、地域の農家の方々や多くのこども達からたくさんの「ありがとう」の声を頂きました。また「地域にはまだまだ素晴らしい素材がたくさんある」ということにも気づかされました。これをきっかけに地域の産品を掘り起こし、県内外にその魅力を広げていく活動が一層加速し、社の大きな方針の一つになりました。

Ⅲ. 今回の事業実施で達成される状態(アウトプット)※複数設定の場合はコピーし複数記載ください。

①受益者	②課題	③今回の事業実施で達成される状態 (アウトプット)	④指標	⑤目標値・目標状態	⑥結果	⑦考察
コロナで影響を受ける 従事者	事業実施上 の困難	県産品がコロナ禍の影響を受けている状況を 県民が認識し、県産品を家庭や飲食店で活用 している	県民の認知・活用度	多くの県民が認知・活 用している	1 1	クラブやイオン城塚の発信力も浩かし県内のIV ニュース (3社) や新聞 (4社)、WEBメディアを 通して広く周知された。SNS等で周知により県民 が県産品活用している事例も確認できた。
コロナで影響を受ける 従事者	事業実施上 の困難	県産品の発育やアスリートへの有効性という 新たなメリットを県民が認識し、県産品を家 庭や飲食店で活用している☑	県民の認知・活用度	多くの県民が認知・活 用している	アスリート向けレシピ 5件を公開	地上波TV番組やWEB動画でレシピ公開し、SNS等で県民がレシピを活用している事例も確認できた。
コロナで影響を受ける 従事者	事業実施上の困難	支援対象の生産者が抱える課題が改善または 解決されている 凶	識及び課題改善・解決		品目の県産品メニュー	本事業を通じてイオン琉球(県内小売大手)との 初取引も2件発生。弁当が想定以上に売れて県産品 が品切れした事例もあった。
コロナで影響を受ける 従事者	事業実施上 の困難	PRした県産品の新たな流通経路の開拓または 拡大 ⊠	イオン琉球の仕入高	2020年同時期比105%	琉球応援弁当11418個 を販売	本事業の想定以上の反響に対しイオン社内で社会 課題対応として県産品販売の積極検討につながっ た。
子ども・学生	学習機会の 不足/格差	子供たちが琉球応援弁当を通じて県産品に親 しんでいる☑	子供達の県産品への接 点図	県産品への関心(栄 養・味・メリット)が 高まっている☑	琉球応援弁当を計 5000個寄贈☑	子供達からのお礼メッセージで、県産品のおいし さに改めて気づいた事例なども確認できた。子供 向けの新しい食べ方も紹介できた。
子ども・学 生	学習機会の 不足/格差	外の世界に関心を持つている区	困窮家庭の子供たちの 非日常体験数	新しい経験により、視 野が広がり、好奇心が 高まっている⊠	スタジアムバスツアー 8回、選手訪問2回実施	コロナ禍により学校行事が無くなる中で特に困窮 家庭の子供には食糧以外に社会的・文化的経験も 不足している現状に対し、有効な活動であった。

IV. アウトカム (事業実施以降に目標とする状況)*

考察 籌	県産品生産者から子どもたちへの寄付希望について、クラブに相談が来るケースも出てきた。本事業に参加した企業、団体、自治体からは活動の継続を望まれており、農 水生産者と子供達を繋ぎ同時に支援するシャレンブラットフォームとして定着させていきたい。
事業実施以降に目標とする状況	● 学の アインによる県産品の施力や利用方法の発信が定着している ● 県民が県産品がコロナ禍の影響を受けている実態を認知し、観光に依存し過ぎない県産品の流通が促進・定着している ● 「琉球応援弁当」が沖縄県の農水生産者と困窮家庭の子供達をつなぎ、同時に支援できるブラットフォームとして定着している。 ● FC琉球、おきなわこども未来ランチサポート、イオン琉球、沖縄県の4者の連携体制が継続し、課題に取り組んでいる ● 沖縄の子どもの経済的な生活環境が改善され、将来の夢や目標を持つことによる自立が促進され、貧困の連鎖が断ち切れている。 ● 沖縄の子どもの栄養状態が改善されている。

V. 活動

活動	進捗	概要
FC琉球のメディアでの発信:県内地上 波TV番組、特設WEBサイト、SNS、ス タジアム(ビジョン、プース)	計画通り	クラプ公式地上波TV番組5回、県内TVニュース(3社3回)、県内新聞(4社9回)、WEBメディア、特設プロジェクト WEBサイト、FC琉球およびイオン琉球のWEBサイト及びSNS、FC琉球ホームゲームプース出展2回
県産品を活用した発育やアスリートに有 効なレシビを管理栄養士により開発し特 設サイトに掲載する。各メディアやイオ ンの売場から誘導。		アスリートウチナー飯として、「もずくのコンディションUPサラダ」「かぼちゃと島野菜の甘酢炒め」「あぐートマト煮」「なすと 豚肉の油みそ丼」「県産鶏もも肉〜たんかんとにんじんのフレッシュソース添え〜」の5件をTV番組やWEB動画で公開。
県産品PR映像を制作する過程で、生産 者の課題確認→課題解決策をイオン琉 球、沖縄県との協働により検討・実施す る	ほぼ計画通り	当初事業計画からの変更により映像制作数は減ったが、メディアを通じての幅広い露出ができた。本事業の想定以上の反響に対しイオン社内では社会課題対応として県産品販売の積極検討につながった。
PRした県産品を活用した「琉球応援弁 当」の販売及び県産品の販売誘導による 直接的な流通促進	ほぼ計画通り	県産品利用により販売価格が540円と高い設定となり、300円台の弁当中心の中で目標数には届かなかったが、イオンとして11418個は想定以上の販売数であったとのこと。弁当には、県産のゴーヤー、かぼちゃ、もずく、セーイカ、卵、人参、玉ねぎ、やんばるあぐ~豚、紅芋、トマト等を活用した。
コロナ禍の影響を受ける困窮家庭の子供達への食糧支援及び県産品の流通促進を目的として企画開発した「琉球応援弁当」を県内の子ども食堂に配布する。また、FC琉球選手との食育ワークショップも実施する。	計画通り	これまで子供食堂ではレトルト食品やインスタント食品の寄付は多かったが、弁当の寄付はほとんどなかったとのことで、大変喜ばれた。また支援が行き届いていなかった宮古島、石垣島にもイオン琉球との協働により寄付が実現できた。
子ども食堂の子供達をFC琉球のホーム ゲームにバスで送迎し「琉球応援弁当」 を食べながら無料観戦してもらう。ま た、県産品PRブースにて選手との交流 も実施。	計画通り	コロナ禍により学校行事が無くなる中で特に困窮家庭の子供には食糧以外に社会的・文化的経験も不足している現状に対し、有効な活動であった。

VI. 想定外のアウトカム、活動、波及効果など

I		協働したイオン琉球より、本事業をきっかけに、これまで取扱いのなかった食材を新たに仕入れる体制ができるなど、県産品の活用に対する姿勢が変わったとのことで、		
ı		県内小売大手の活動に影響を与えることができたのは大きな効果であった。		
	想定外のアウトカム、活動、波及効果な			
ı	لا			
ı				
ı				

VII. 事業終了時の課題を取り巻く環境や対象者の変化と次の活動

	本PJに参加した企業、団体、自治体からは活動の継続を望まれており、農水生産者と子供達を繋ぎ同時に支援するシャレンプラットフォームとして定着させていきたい。
課題を取り巻く変化	

Ⅷ. 他団体との連携

連携先	実施内容·結果
イオン琉球株式会社	弁当開発、弁当生産、県産品仕入れ、県産品PR、食育ワークショップ及びパスツアーサポート
おきなわこども未来ランチサポート	困窮家庭の子供達への弁当支給、食育ワークショップ及びパスツアーコーディネイト
沖縄県(商工労働部)	県産品紹介
_	

IX. インプット ※事業完了月の月次収支管理簿の金額を入力ください。(精算金額と一致させる必要はありません)

		訂凹額	美 續観	乳仃 學
事業費	直接事業費	12,311,000	12,308,986	100.0%
尹未貝	管理的経費	1,181,075	1,181,075	100.0%
合計		13,492,075	13,490,061	100.0%
補足説明		未執行額2,014円		

X. 広報実績

広報内容	内容
	クラブ公式地上波TV番組(沖縄テレビ、5回)、県内TVニュース(沖縄テレビ、琉球放送、琉球朝日、計3回)、県内新聞(琉球新 報、沖縄タイムス、宮古毎日新聞、八重山毎日新聞、計9回)、WEBメディア(ふらびゅー沖縄1回)、特設プロジェクトWEBサイ ト、FC琉球およびイオン琉球のWEBサイト及びSNS
2.広報制作物等 当該事業費を使って製作したもの	特設プロジェクトWEBサイト、事業PR動画、TV公式番組4回分、県産品レシビ動画
3.広報制作物、購入物等でシンボルマークの活用方法(事例)	特設プロジェクトWEBサイト、事業PR動画、琉球応援弁当バッケージ、事業PR装飾物(のぼり等)
4.報告書等	なし

XI. ガバナンス・コンプライアンス実績

AI. ガハナノス・コンノフイアン人夫領		
①規程類※の整備実績 ※規程類:定款・規程及び準ずる文書類(指針・ガイドライン等を含む)	状況	内容
1.事業期間に整備が求められている規程類の整備は完了しましたか。	整備中	整備中ではあるものの、実態としては求められている規定内容と同水準の運用を実施。
2.上記設問1で「整備中」の場合は、事業開始時と比較して、整備状況が どのように改善されたかを記載してください。		
3.整備が完了した規程類を自団体のwebサイト上で広く一般公開していますか。	未公開	公開義務なく、予定もしていない。
4.変更があった規程類に関して資金分配団体に報告しましたか。	変更はなかった	
②ガバナンス・コンプライアンス体制	状況	内容
1. 社員総会、評議員会、理事会は、規程類の定める通りに開催されていますか。	はい	株主総会・役員会を開催。
2. 利益相反防止のための自己申告を定期的に行っていますか。	いいえ	受発注に係る部分については担当役員が監視・管理しており、 必要な場合は取締役会にて決議を行っている。
3.関連する規程類や資金提供契約の定めどおり情報公開を行っていますか。	はい	
4.コンプライアンス委員会またはコンプライアンス責任者を設置していましたか。	はい	
5.ガパナンス・コンプライアンスの整備や強化施策を検討・実施しましたか。	はい	現在規定はないものの運用実態のあるものを規定として作成を検討。
6.報告年度の会計監査はどのように実施しましたか。 (実施予定の場合含む) (複数選択可)	Id 外部監査 Id 内部監査 II 実施予定はない	外部監査:公認会計士監査によるガパナンス及び会計上の取り扱いについて確認予定。 内部監査:監査役監査によるガパナンス及び会計上の取り扱いについて確認予定。 を実施予定。
7.本事業に対して、国や地方公共団体からの補助金・助成金等を申請、 または受領していますか。	いいえ	
8.内部通報制度は整備されていますか。	いいえ	制度としては整備していないものの、実態としては業務管理部が 内部通報窓口として機能している。